

# ひまわりデータの利活用促進について

令和 8 年 2 月 27 日

静止気象衛星に関する懇談会

気象庁

# ひまわりのデータ活用促進に向けて

- ・ 気象庁では、気象情報・データの利活用促進に重点的に取り組んでいる。



## ②気象情報・データの利活用促進

- 情報・データが、基盤情報として流通・利活用されるよう、容易に取得・利活用できる環境整備と、「理解・活用」されるための取組を推進。

### ◎利活用の姿を実現するための具体的な取組

#### ●利活用環境の整備

- ・気象情報・データの流通促進
- ・アクセス性向上 ・制度の見直し

#### ●理解・活用力向上

- ・防災・生活に係るリテラシー向上
- ・経済活動への利活用

2030年の科学技術を見据えた気象業務のあり方  
(気象分科会提言概要) (平成30年8月20日)

# ひまわりのデータ利活用促進に向けて

- ひまわりデータ利用研究推進グループ
- 各種学会等での周知活動
- ひまわり10号赤外サウンダ観測データの利用技術の開発に関する研究協力者の募集

# ひまわりデータ利用研究推進グループ

- 参加者の取り組むひまわりデータ利用の研究開発に関する情報交換を行うことで、その研究開発の進展を目的とする。
- データ利用研究活動に関する意見交換を実施してきた「データ利用研究推進グループ」の活動を、当懇談会の外に場を移して引き継いでいる。
- 大学、研究機関、企業又は行政機関等で衛星データを含むリモートセンシングデータの利用研究開発又はそれに関連する活動を行う方が参加している。
- 気象庁が事務局を務めており、申込フォームから参加申込み可能。
  - ひまわりデータ利用研究推進グループ ポータルページ  
[https://www.data.jma.go.jp/sat\\_info/himawari/suishin/suishin\\_portal.html](https://www.data.jma.go.jp/sat_info/himawari/suishin/suishin_portal.html)
  - 事務局への申込フォーム  
<https://forms.office.com/r/sYC5NUaTtp>

# ひまわりデータ利用研究推進グループ

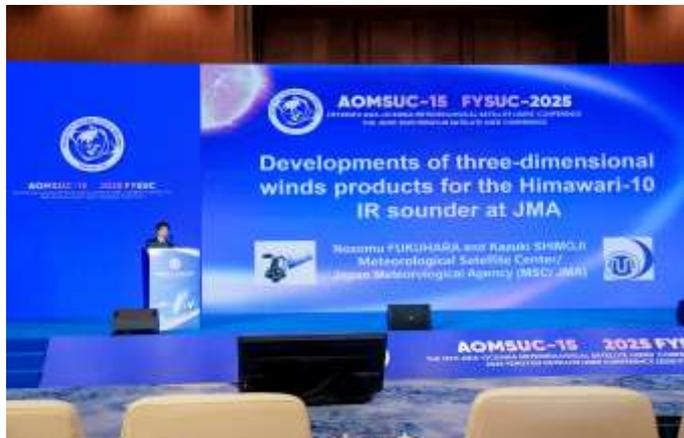
- グループ内への情報共有を実施した。
  - 欧州初の赤外サウンダIRS搭載 静止気象衛星MTG-S1の打ち上げ成功  
(令和7年7月2日)
  - 次期静止気象衛星「ひまわり10号」に関する英語論文の掲載のお知らせ  
(令和7年7月10日)
  - 日本気象学会2025年度秋季大会 専門分科会「気象衛星ひまわり10号搭載赤外サウンダの利用研究」について  
(令和7年7月11日)
  - 第15回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議の開催について  
(令和7年7月15日)
  - ひまわり10号の整備スケジュールの変更について  
(令和7年8月29日)

# ひまわりデータ利用研究推進グループ

- ひまわりデータ利用研究推進グループ会合
  - 令和8年1月27日及び2月3日に同内容でオンライン開催
  - 気象庁から以下の話題について情報提供
    - ひまわり10号の整備進捗状況
    - データ提供に関する計画
    - 次々期衛星の検討と相乗りのアイデア募集
  - 今後ひまわり10号の観測データを活用していくために必要な準備を各利用者が進められるよう情報提供。
  - 静止気象衛星というプラットフォームをさらに活用してもらえるよう、グループのメンバーに次々期衛星に観測機器を搭載するために必要となる情報を提供し、観測機器の相乗りという形での静止気象衛星の活用の検討を促した。

# 各種学会等での周知活動

- 次の各種学会等でひまわり10号に関する周知を実施。
  - 日本気象学会2025年度春季大会
  - 日本地球惑星科学連合2025年大会
  - EUMETSAT気象衛星会議2025
  - 第15回アジア・オセアニア気象衛星利用者会議
    - ひまわり8号・9号による基本雲プロダクトの新しい雲マスクの開発状況
    - 赤外サウンダを用いた3次元風解析プロダクトの開発状況
  - 第106回アメリカ気象学会
    - 赤外サウンダの主成分分析を用いたデータ圧縮手法の開発状況



# 各種学会等での周知活動

- 日本気象学会2025年度秋季大会

専門分科会：気象衛星ひまわり10号搭載赤外サウンダの利用研究

- 11月8日に赤外サウンダに関する情報と利用研究の成果を共有する場として開催。
- 気象庁から配布している赤外サウンダ模擬観測データを、既存の赤外サウンダのデータから物理量を算出する手法に当てはめた場合のデータ解析結果などについて情報共有された。
- 気象庁からも、ひまわり10号の整備状況について報告を行った。

- 日本気象学会2026年度春季大会（予定）

シンポジウム：静止気象衛星「ひまわり」の将来展望

- 5月15日にオンラインで開催予定。
- ひまわりのデータは、気象庁の予報等だけでなく、様々な研究や産業界でも活用されており、2030年度にはひまわり10号の運用開始が予定されていることを踏まえ、今後のひまわりのデータの研究等への利活用について様々な立場からご議論いただく予定。

# 赤外サウンダ模擬観測データ

- ひまわり10号には大気の構造を3次元的に観測することができる「赤外サウンダ」を新たに搭載する。
- ひまわり10号搭載の赤外サウンダのデータ利用を打ち上げ後、速やかに開始することを目的に、ひまわり10号赤外サウンダの観測を模擬したデータ（模擬観測データ）を作成した。
  - 気象庁では、この模擬観測データを用いて、赤外サウンダの利用技術開発（衛星プロダクト開発、数値予報システム同化等）に取り組んでいる。
- オールジャパンで模擬観測データを使った赤外サウンダの利用技術の開発を推進するため、令和6年度末には協力いただける研究者等に本データを提供した。



# 赤外サウンダ模擬観測データ

- ひまわり10号赤外サウンダ観測データの利用技術の開発に関する研究協力者による研究開発の促進
  - 模擬観測データを用いた各種物理量の算出や数値予報へのインパクトの確認等を目的として6者（大学4、研究機関1、民間企業1）にデータ提供し、研究開発を促進。令和8年1月時点、各自の研究開発の進捗状況を確認。
  - 提供後も各自の研究開発の進捗状況を定期的に確認している（直近は令和8年1月）。今後、進捗に応じて情報提供いただく機会を設けることも検討する。
  - また、追加の研究協力者の募集や、最近の現象を対象とした模擬観測データの提供についても、今後、ニーズを踏まえて対応を検討していく。

# 今後の取組み

- 今年度、衛星の詳細設計審査が終了したことにより、イメージャやサウダの設計値が明らかになり、各観測機器のデータ量の見積りもある程度明確化できた。
- これらを踏まえ、R8年度以降、部外へのひまわり10号データの配信について、検討や周知を進めていく。
  - 民間事業者や報道機関等の利用者に丁寧な説明を進めていく。
  - 研究者向け提供については、関係協力機関と協議を進める。
  - 海外気象機関にも国際会議の場を捉えて積極的に最新の情報をインプットしていく。